

Sener, H., Evereklioglu, C., Horozoglu, F. & Gunay Sener, A. B. Efficacy and Safety of Adalimumab in Patients with Behçet Uveitis: A Systematic Review and Meta-Analysis. *Ocular immunology and inflammation* 32, 89-97, doi:10.1080/09273948.2022.2157288 (2024).

ベーチェット病によるぶどう膜炎患者におけるアダリムマブの有効性と安全性：系統的レビューとメタ分析。

これまで、ベーチェット病によるぶどう膜炎に対して抗 TNF α 阻害薬のインフリキシマブが高い有効性を有することが示されてきました。一方、同じ抗 TNF α 阻害薬であるアダリムマブの有効性については学会や論文などで報告はされていたものの、症例の蓄積が必要とされていました。本研究では観察研究の系統的レビューとメタ分析により、ベーチェット病によるぶどう膜炎に対するアダリムマブの長期的な有効性と安全性について検討されています。本研究では 10 件の観察研究が解析対象となっています。結果として、アダリムマブは視力を有意に改善 (0.124 logMAR 改善) し、眼内炎症の重症度と黄斑部網膜厚を減少させることが示されました。またアダリムマブ使用に伴って、副腎皮質ステロイドの減量効果も示されました。一方で、副作用の発生率は比較的低く、解析対象となった 301 人の患者のうち 8.5% に副作用が認められました。これらの結果は VISUAL1、VISUAL2 試験で示されたアダリムマブの有効性・安全性から期待・予測される結果であったと考えられます。また著者らは罹病期間が長期化するにつれて、アダリムマブの視力改善効果が制限されることを指摘し、アダリムマブがベーチェット病によるぶどう膜炎のための有効で安全な第一選択薬であると結論付けています。

本邦のガイドラインでは、視力が脅かされる症例においてはアダリムマブが早期に導入されることを許容していますが、症例の蓄積がすすめば近い将来、アダリムマブのより早期の導入について再検討が必要になるかもしれません。

(担当者：神戸大学 松宮 亘)